運営会議たより

12月/2017年/NO.32

発行■特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営会議（認定法人）［鎌倉市市民活動センター指定管理者］
TEL0467-60-4555 FAX0467-61-3928 ■E-mail:npo@chive.ocn.ne.jp ■http:// npo-kama.sakura.ne.jp/uk/

■特集■P2

「今年度 第一回全員会議の報告」

人に優しい街に！

今年度の協働事業の提案に、発達障害児・者を支援する「いろんなカタチ鎌倉」が応募した。発達障害を知り、発達支援や特別支援教育への理解・啓発・つながりづくりを応援する目的で「新聞」を発行したいという。

提案者の話を聴いて認識を改めた。バスや電車の車内で奇声を上げ走り回る子どもがいる。確かに、迷惑に感じる時もある。話を聴けば、光や色、音の突然の変化が刺激になって奇異な行動を引き起こすという。その行動や態度が「異常」とか「変わり者」「困った人」と見られ、敬遠され、非難される。これはあくまでも障害で、本人が悪いわけではない。ましてや家族の責任ではない。周囲の人々に理解が深まれば、本人も家族も悩みや苦しみが和らぐはずだ。

鎌倉は、人に優しい街であってほしい。多様な人々を受け入れる度量を持った街であってほしい。解決すべき地域の課題はあちこちある。行政に頼ってばかりではいられない。住民が声を挙げ仲間を作って住みよい・暮らしやすい街づくりを目指すこと。大事なこととつくづく思う。

（協働事業推進部会の一員）

■*鎌倉市市民活動センター運営会議（以下、運営会議）は、*
市民活動団体支援を目的とするNPO中間支援組織です

■*運営会議は、NPO センター（鎌倉・大船）2館の指定管理者です*

■*鎌倉における市民活動の活性化と自立を支援し、共に豊かな地域社会をめざします*

全員会議の報告

今年度第一回の全員会議が平成29年10月14日(土)若宮大路ビルで開催されました。26名の正会員が出席し熱心な議論が行われました。

〝条例否決〟

全員会議の目的は、理事会が、正会員に今期の活動状況を報告し意見交換をする場です。前半、理事長そして部会委員会リーダーから半期の活動報告が行われました。質疑応答では、9月末の議会で否決された「市民活動推進条例(仮称)」が議題に上がりました。市が17名の市民委員を集め、約一年半にわたり検討した条例です。ある正会員から「私どもと同様に多くの議員も条例の必要性を理解している、手続きや説明、長いタイトルなどに疑問を抱いたようだ」との感想があり、今後は、関心を持って見守るだけでなく、数多くの市民活動団体の意見を条例に一層反映できるよう関係個所へ働きかけていくとの方針を確認しました。

〝寄附集めへの決意〟

事務作業に過重を伴う認定ＮＰＯ法人の継続について、反対する声は出ませんでした。「認定ＮＰＯ法人」のメリットは〝寄附を集めやすくなる〟ことです。

意見として、寄附をもらえるような活動を目指すことが大事、との組織の基本を問う声のほか、この５年間「寄附を集めよう」という言葉だけが躍っている。次のステップをどうするかという努力が足りない。だれかやってくれるだろうというのではだめ。一人一人が寄附を集めるという決意が大切、などがありました。

そして「寄附集め」を他人ごとにしないことを全員で確認し、更新の作業に取り組むことになりました。

〝次年度の体制〟

事務局から、鎌倉に本拠を置くＩＴ企業「カヤック」と協働で、鎌倉駅近くの古民家を利用し「子育て支援」のプログラムを企画中との報告がありました。そして理事長から、「次年度は、20周年記念事業実施の年、それに指定管理応募の資料づくりが加わる、更に認定ＮＰＯ法人の更新作業等、行わなければならない作業が山積みです。次年度は役員改選の年でもあり、枠いっぱい８名の理事を是非とも選出したい。理事全員が役割を明確にして、責任をもって事業運営を行わなければ私たちの使命は果たせない。皆さんのご支援ご協力をお願いしたい」との発言で幕を閉じました。

◆◆◆◆◆◆◆



20周年委員会から

コラボ事業

いま、団体間のコラボレーション(協同作業)が話題になっています。鎌倉市市民活動センター運営会議の10月末の登録団体は３５２団体。20周年事業委員会のコンセプトは〝和をつなぐ。輪をひろげる。〟です。

20周年記念事業のひとつ「特別かまくらファンド審査会」は、このコンセプトに従い例年行う単体の活動に加え、このコラボ活動も審査の対象にするとの方針が打ち出されました。

このコラボレーションの具体例を紹介します。

いま計画中の活動で、認知症のサポート団体「かまくら認知症ネットワーク」と「鎌倉を美しくする会」が手を取り合って行う「かまくら磨き」があります。「公共の場の落書き消し」作業です。認知症の方でも社会貢献できるはずとの発想から出来上ったこのコラボレーション企画。参加する認知症の方々に、人の役に立っているとの情感が芽生え、その刺激が認知症の進行防止に繋がるといいます。

この新機軸は、市民活動の質を高め進化させるのでは、という夢を抱かせます。

来年の審査会には、数多くの団体が活動に新たな付加価値を求めて、

他団体とのコラボレーション企画を多数提案して頂ければ嬉しい限りです。ご協力をお願い致します。

注）コラボレーション：複数の立場、団体や人によって行われる協力・連携・共同作業のこと。

20周年記念事業のひとつ、講演会。講演者をただ今人選中。条件は、鎌倉に馴染みの有名人。例えば、鎌倉市親善大使の鶴田真由さん、中井貴一さん、星野知子さん、あるいは、鳩サブレーで有名な豊島屋久保田陽彦社長、鎌倉在住で若者に人気の作家・高橋源一郎さん、などなど。それぞれにお忙しい方たち。さて、来年8月25日(土)きらら鎌倉での講演者はどなたになるか？・・・ご期待ください。

【報告】中間支援施設のCEOミーティングに参加して

さる11月1日（水）かながわ県民サポートセンターで行われたボランタリー活動施策推進会議が主催する支援施設分科会ＣＥＯミーティングに参加して来ました。このミーティングは毎年神奈川県下の中間支援組織のリーダーと各市区の市民活動窓口の行政職員が一堂に会し、情報交換や話し合いを行うものです。

ミーティングに先立ち、日本ＮＰＯセンター特任理事の田尻佳史氏が「ＮＰＯを取り巻く環境の変化とＮＰＯ支援のこれから」と題して講演を行いました。講演では、中間支援組織のあり方として、立ち位置の確認（誰のための何のための支援なのか）、こだわりと予見の確認（組織のミッションと先を見通した取り組み）、必要とされる組織かどうか、自信を持って働ける職場かどうかなどの問題提起がありました。

その後のグループに分かれての話し合いでは、それぞれの中間支援組織が抱える問題を具体的に出し合い、「多くの人が関わる組織・開かれた組織になっていない」「市民を巻き込む力が弱い」「サポートセンターに対する期待値が落ちてきている」などの危機感が共通して浮き彫りになりました。これに対して、「常に何をする組織なのか組織の目標を問い直し続け、それを外に発信する」「何かが起きる（何かを起こす）センターになる」ことの重要性をあらためて確認しました。センターの日常業務に追われる中でつい忘れてしまいがちなことを気づかせてくれたり、今まで交流のなかった中間支援組織のリーダー達とも知り合いになれた有意義な会議でした。（西畑　直樹）

平成29年11月1日 ソーシャルコーディネートかながわ主催
CEOミーティング参加者25名（所属と役職のみ）

行　政		中間支援組織	
①厚木市市民協働推進課	主幹	③逗子文化プラザ市民交流センター	副館長
②大和市民活動課	課長	④おだわら市民交流センター	センター長、スタッフ
③小田原市地域政策課	課長	⑤座間市民活動サポートセンター	スタッフ2名
④鎌倉市地域のつながり推進課	主事	⑥藤沢市市民活動推進センター	センター長
⑤海老名市市民活動推進課	主事	⑦鎌倉市市民活動センター	事務局長、センター長
⑥平塚市協働推進課	担当長	⑧ちがさき市民活動サポートセンター	センター長
⑦藤沢市市民自治推進課	課長補佐	⑨かわさき市民活動センター	課長
⑧南足柄市市民協働課	班長	⑩ひらつか市民活動センター	スタッフ
中間支援組織		⑪秦野市市民活動サポートセンター	センター長
①とつか区民活動センター	センター長	⑫藤沢市市民活動プラザむつあい	室長
②さがみはら市民活動サポートセンター	総括責任者、センター長	⑬いせはら市民活動サポートセンター	スタッフ

市民活動に関する相談

NPO設立や運営に関する相談、会計処理に関する相談など。「相談部会」がお受けします。委員は正会員の税理士、社会保険労務士、中小企業診断士、行政書士など。
お問合せは、NPOセンター鎌倉　電話：0467-60-4555

市職員の体験研修

鎌倉市職員の研修の一つ、市民活動団体の実働を体験するプログラムが11月下旬から実施されています。若手職員50名ほどが登録の11団体の活動に参加する予定です。

快く受け入れて頂いた団体の皆様に心より感謝致します。

「鎌倉は市民活動が盛んな街」と言われますが、自分には遠い存在と捉える市民のみならず市職員も少なくないと聞きます。市職員が住民と一緒になって地域活動に汗を流すことで、地域の課題解決に、住民の力が欠かせないと、その体験を通じて実感してほしいと思います。反論もあります。〝市民活動は、住民が熱い思いで、地元の課題に自分の時間を割いても取り組むもの〟。そんな考えから、平日に行う研修に疑問を呈する意見も確かにあります。

いま私たち協働事業推進部会は、市職員が市内の市民活動の多様な存在を知り、体験してもらうこと、これがまずは第一歩との判断でこのプログラムを後押ししています。

研修終了後、受入団体の方々を交え、この体験を仕事にどう活かすのか、どう活きるのか、を市職員とともに考える研修会の開催を市に提案しています。

このプログラムを重ねることで、行政の皆様が、市民活動の現場に触れ市民活動の存在感や役割への理解が進めば、より地域に密着した政策提案がなされるのではないでしょうか。大いに期待したいところです。

センタースタッフの募集

1．就業場所：鎌倉市市民活動センター（鎌倉、大船の２か所）
2．勤務内容：事務局スタッフ（会議室の予約受付等市民活動のサポート）
3．勤務時間：週２日程度：9:00～17:00（内 45 分休憩時間）土日勤務あり。
4．賃　　金：① 日給：7,480 円(予定)　② 通勤手当　実費

募集期間：2018 年 3 月末日　　お問合せ：NPO センター鎌倉まで

ほやほや 正会員

鎌倉市上町屋に住み始めて27年３か月になります。会社勤めから一息ついて、小学生のこども向けのランニングクラブを手伝うようになりました。そのホームページを公開するため、広報部会のＨＴＭＬスマホ講座を受講の折に、入会の紹介があり、広報部会で活動することになりました。

現在、週４日のパートとして働いていますが、市民活動センターが行っているサポート業務に興味を持っていましたので、入会させていただきました。生まれは、北九州市、これまでに、転勤などで居住したところは、大分市、横須賀市、久留米市、東根市、土浦市、恵庭市、札幌市、八千代市、鎌倉市です。それぞれの地域の居住期間の長短はありますが、それぞれに趣と言いますか雰囲気があり、よい経験ができたと思っています。

市民活動のサポートについての経験は全くありませんが、皆様の思いを形にする活動に参加できることを嬉しく思っています。

皆様からのご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

大濵　裕二

＜主要スケジュール＞
■部会連絡会（1/15、3/12）
■利用登録団体懇話会（1/27）
■全員会議（2/17）
■総会（5/26）

会　員　募　集

運営会議は会員によって支えられています。

〈会費〉
正 会 員
　個人正会員　2,000 円
　団体正会員　3,000 円
賛助会員
　個人 1,000 円、２口以上
　団体 1,000 円、３口以上
正会員数　　78名
団体正会員数　　９団体
賛助会員数　　27 名
賛助団体数　192 団体
（12 月１日現在）

鎌倉市市民活動センター運営会議は「認定 NPO 法人」格を取得しています

“あなたのご寄附が、鎌倉の街を元気にします”
確定申告で寄附金を税額控除できます。神奈川県と鎌倉市の個人住民税からも控除となります。
お問合せは NPO センター鎌倉まで。